



## SUSAPVI 2018

Uji. lab.

私たちの研究グループは、視覚障害のある高校生が、大学を知り、自身を知り、知識を身につけ、技術を身につけることで大学等の受験、入学、修学、就職を促すことを、目的とした「高大連携プログラム」の開発研究を行なっています。その一環として、2018年度は視覚障害高校生のためのスキルアップセミナーを、中野研究室（慶應義塾大学）との共催で慶應義塾大学を会場に3日間の日程で実施しました。

研究代表 氏間和仁（広島大学准教授）

## 大学を知る！

大学について、図書館、学食、大教室、掲示板などの施設、時間割、学生便覧、試験などの資料を中心に体験します。実際の大学を知ることで、今すべきことが明確になり、入学時の配慮要求がより具体的にできます。

知  
る

大学で要求される課題に、今持っているスキルを出し切って挑戦して評価

自分の見え方、補助具やデジタル機器の活用技術について実際に大学での授業を想定した課題に挑戦しながら、その到達度を知ります。この体験を通して、これからの準備が具体的になります、目標も明確になります。

## 自分を知る！

## 【参加者のコメント】

- 私は、わかるつもりだったけれど、援助依頼や配慮要求について、わかつていませんでした。友達の存在は、情報の安心にも繋がるとわかりました。また、何もかもが大きいので、高等部と同じ気持ちでは、いられないと思いました。
- 液晶画面の見過ぎは目に悪いといわれるが、アプリやクラウドを上手く活用できれば逆に視覚の助けになるということに気がついた。目に負担をかけ過ぎない程度に、積極的にICTを活用していきたい。
- 配慮要求については、相手を敵に回さず、出来るだけ学びやすい環境をいかにして作るかという交渉術を学ぶことができた。自分を客観視できるようになると進歩できると思う。気が短い自覚があるので、マウントを取ろうとせず、自分が調べたり、知っている情報を相手を不快にさせずに伝える術を身に付けてください。
- まずは、点字使用者は、センター試験で一般的に点字の冊子をもらえるということを聞いて、安心しました。また、勉強も配慮申請も、早め早めにしたほうがいいと思いました。また、申請には、先生との相談が必要とわかりました。皆さんのはなから、工夫しながら勉強する大切さを知りました。
- 「非攻撃的な自己主張」自己主張という一番苦手なものに加え、非攻撃的となると、とてもハードルが高くなったりうに思いますが、だからこそ自分のものにしていきたいなと感じました。対話のスキルを自然に発揮していくように努力したいです。

本研究は、日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(B)「視覚障害者の円滑な大学進学を目指した高大連携システムの開発と評価」(課題番号18H01040) (研究代表: 氏間和仁) の補助を受けて実施されています。

## 技術を身につける！

大学や就職、日常生活にとってデジタル機器を使いこなせる技術を身につけておくことは、視覚障害者にとって必須です。自身を知った上で、専門家から直接、機器の選定のアドバイスや効果的な使用方法を学びます。



## 身につける



センター准教授による直接講義、実際の拡大や点字問題、解答用紙を用いた演習

大学受験や入学時の配慮要求を行うためには、試験やそこに用意されている配慮の内容、大学での学生支援の仕組みなどに関する知識や、合理的配慮・配慮要求などの知識、交渉するための建設的対話スキルが必要です。各専門家からそれらの知識について演習を交えて学びます。

## 知識を身につける！

## 研究グループ

- |               |      |
|---------------|------|
| 氏間和仁 (広島大学)   | 研究代表 |
| 中野泰志 (慶應義塾大学) |      |
| 永井伸幸 (宮城教育大学) |      |
| 田中良広 (帝京平成大学) |      |
| 竹林地毅 (広島大学)   |      |
| 韓 星民 (福岡教育大学) |      |
| 相羽大輔 (愛知教育大学) |      |
| 大島研介 (神奈川大学)  |      |